



「善循環の輪質疑応答エッセンス集」(広報担当 大山)

「善循環の輪 福岡南部の集い in 柳川」から ◎限界突破について

<質問要約>

野菜栽培などでの限界突破の現象は、どのようなことから起こるのでしょうか。

<比嘉教授からのコメント>

種が本来持っている素質や投入されるエネルギーの無駄を無くすことが、限界突破を引き起こします。EMを投入すると、非イオン化・抗酸化・エネルギー変換が同時に起こり、一般に言われる収量よりはるかに多く収穫されます。例えば通常、米は一粒の中に栄養を貯める袋が100あると言われていますが、顕微鏡で調べてみると1200の原型があります。

栽培地にEMを投入すると、土の中の肥料分の有機酸が発酵分解され糖分になり、アミノ酸がたんぱく質に変わります。また、EMの持つ非イオン化力と抗酸化力により、光合成と同時発生する無駄なエネルギーである光呼吸を半分以下に出来ますので、光合成の効率が上がります。更に3次元波動が光合成には使われない紫外線を細かく分解し、光合成に使われる可視光線に替えることで、本来持つ太陽エネルギーの無駄を減らすことが出来ます。栽培する過程での風・乾燥など外部ストレスも抑えることが出来ます。こうすると通常の3倍の収量が可能となります。

しかし、限界突破する過程で好転反応が出る場合があります。これは、悪い要素を吐き出し本来の姿、正常に戻すための一時的な現象ですので、この段階で諦めてはいけません。今あるものを限界としていますが、EMを使えば必ず限界突破できますから、頑張ってください。

EM 研究機構様による飯館村での放射能低減化実験について

表題の件、実験開始時 20,000Bq/kg あった土壌が、EM 処理を施すことで二か月後には 5,000Bq/kg まで低減したことは、比嘉教授の著書やコラム、各種事例集などに掲載されております。

今回は本実験における EM 活用方法を紹介いたします。

なお、本処理方法は一つの事例であり標準マニュアルではありません。目安としてご参考いただければと存じますので、ご理解ください。



【活性液培養方法】

百倍利器(200Lタイプ)を使用し、各種資材を次の通り配合。EM・1:2%(4L)、EM・3:1%(2L)、糖蜜:1%(2L)。その後37℃で一週間培養。

【散布方法】

上記のEM活性液100Lを水で5倍に薄めた(500L)希釈液を、10aの圃場へ動力噴霧器で散布。この散布作業を週に二回、二か月間継続して行った。

◇◇◇◇◇ ご協力をお願い ◇◇◇◇◇

Uネットでは、行政が主体もしくは支援しているEMによる水系浄化活動の実態調査を行っています。県や市町村が予算化した浄化活動や、各種助成・補助事業、公募基金などでEMを用いた浄化活動を実施されている方、またはご存知の方は、Uネット事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

◇◇◇◇◇ お知らせ ◇◇◇◇◇

1. 比嘉教授の最新著書「シントロピー【蘇生】の法則」は、お陰様で増刷が決定いたしました。なお、今後も発送作業を週に一度とさせていただき都合により、ご注文からお届けまでに7~10日ほど掛かりますこと、ご了承くださいませようお願い申し上げます。
2. 前回(212号)にてお願いしました冬物衣料提供のお願いにつきましては、早速多数のご支援をいただいております。ありがとうございます。現在も受付しておりますので、詳細はUネット岩手様(電話019-604-9555)へお問い合わせください。